



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

「～むかしの道具にみる～ くらしのうつりかわり展」を開催中

現代の生活との違いを考えるために昔の生活道具を展示しています。以前の生活と今の生活を比べてみてください。

小学校の見学も受け入れています。

- ◆期間 ～3月1日(日)
- ◆会場 歴史資料館 企画展示室
- ◆入場料 無料



▲明治時代の学校教科書



▲洗濯板とたらい

小城郷土史研究会の研究発表会が 開催されます

小城の歴史研究などに取り組む小城郷土史研究会(眞子雅允会長)の研究発表会が開催されます。

- ◆日時 2月1日(土) 14時～
- ◆会場 歴史資料館 研修室
- ◆参加費 無料

発表内容	発表者
「昭和天皇の一枚の写真 小城行幸七十周年を迎えて」	城島敏明さん
「千葉胤頼は何処から来たのか 千葉氏の足跡を訪ねる」	城島敏明さん
「日本三大興国禅寺三間山円通寺の紹介」	金丸盛登さん
「海を渡った情熱の歌人・久保綱子」	岡本澄雄さん
「石隈吾郎左衛門と芦刈のこと」	東 統禅さん

※発表者・内容・発表順は変更する場合があります。

おぎの歴史探検隊

小城的歴史探検隊〈その1〉 肥前千葉氏三代記—千葉頼胤—

小城町は、鎌倉・室町時代に千葉城を中心とした中世都市として、江戸時代には小城鍋島藩の城下町として繁栄しました。

平安時代末期、源頼朝の挙兵から鎌倉幕府設立まで一族をもって貢献した東国(関東)一の武将として桓武天皇の流れをもつ武将千葉常胤は、恩賞として小城晴気庄を始め、北は陸奥国(岩手県)、南は薩摩国(鹿児島県)5郡6か所の地頭職とその領地を賜りました。

常胤の子孫・千葉頼胤のとき、大陸の蒙古帝国が日本に使者を送り、何度も服従を要求してきました。そのため蒙古襲来に備えて幕府は諸国の武士に下向を命じ、頼胤も小城に下向しました。その子宗胤が肥前千葉氏の祖となります。

1274年10月九州筑前博多湾に蒙古軍が襲来して

きました(文永の役)。頼胤はこの戦いに参加応戦、海岸付近まで繰り出して蒙古軍と衝突しましたが、このときの合戦で頼胤は蒙古軍の矢をうけて退却。

小城で傷の治療にあたりましたが、その傷がもとで翌年、1275年8月に肥前小城にて37歳の若さで亡くなりました。

その子、宗胤は千葉氏の跡取りでしたが、蒙古軍に備えるために九州にとどまりました。(続)

小城郷土史研究会/著



▲千葉城跡 現在の小城町吉田付近

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
 【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課 (桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132